

農事組合法人 ぶき村（豊後高田市田染路）

【経営の概要】

経営形態	生産組織（特定農業法人）
モデルの種類	中山間地モデル
設立時期	（総会）平成16年11月18日 （登記）平成16年11月30日
構成戸数	68戸
労働力	基幹1名、補助5名

【経営規模(ha)】

	経営面積	水 稻	麦 類	大 豆	そば	その他
			小 麦			
平成19年	24	13.4	17.2	4.4	6.0	—
平成20年	25	14.5	17.0	6.0	8.0	0.3
平成21年	25	15.6	20.4	0.9	16.8	0.3

【主要機械装備】

トラクター（50ps、36ps）	2台	大豆・そばコンバイン	1台
田植機（6条）	1台	ブームスプレーヤー	1台
自脱型コンバイン（4条）	2台		

【経営の特徴】

<p>11年 基盤整備後の農地の担い手として一集落一農場方式で集落営農を実践。</p> <p>16年 特定農業法人化</p> <p>常に中山間地域集落営農のモデル組織として活躍。地元を含めた多くの集落営農を目指す組織の手本となっている。</p>

【導入した新技術】

◎土壌分析に基づく土づくり資材の投入

- （手法）H19～21年の小麦栽培にあたって、5圃場で土壌分析を行い、診断結果に基づいた施肥を行った。
- （結果）毎年堆肥を投入していたため、比較的土壌の状態は良好であった。
その結果、当初200kg/10a投入予定だったミネラルGの投入量を100kg/10aに減らし、資材節減につながった。
また連年の土壌診断実施により、土づくりの必要性について認識が高まった。
- （留意点）今後も継続することが重要。

◎乗用管理機等使用技術

- （手法）ブームスプレーヤーを用い、水稻、麦、大豆の各防除や麦除草剤散布を行った。定例的な防除については月1回の定例会、随時防除については現地巡回の際に作物の状態を見ながら、関係機関指導の下、施用した。
- （結果）ブームスプレーヤーでの液剤散布は薬剤単価も安く、散布効率もよい。
（散布自体は1人で可能）
大規模経営においては低コスト省力化の大きな鍵になると思われる。

◎狭畦密植栽培

(手法) 定例会で振興局より当技術の内容について事前に説明を実施。平成21年産では晩播にしても遅くなったため、畦間30cmで実施した。

(結果) 晩播のため一本あたりの生育量は十分ではなかったが、本数が多くなったことにより、全体としての生育量が確保され、一定の収量が確保された。
晩播としては有効であることが確認できた。中耕培土作業もないため、ある意味省力化にもつながると思われる。



(留意点) 晩播だけでなく、適期での導入ができないか検討したい。

◎汎用コンバインによる収穫

(手法) 大豆・そばコンバインを活用し、春そば、秋そば、大豆を収穫した。

(結果) それぞれ成熟期が異なるため、有効活用ができ、減価償却費のコストダウンにつながった。

◎その他特徴的な取組

ふき村には女性部会(加工)や合鴨部会があり、営農部門と有機的に連携し、それぞれ生産活動を行っている。また上部団体であるふき活性化協議会は第45回農林水産祭むらづくり部門で天皇杯を受賞している。

◎主な波及活動

- ・豊後高田市の大規模土地利用型農業に取り組む生産者(組織)を集めての麦研修会(H21.2)にて、成果発表を行った。
- ・豊後高田市の法人を集めた研修会(H22.3)でこれまでの取り組みを踏まえた今後の経営計画を検討。
- ・年に30件ほどの視察を県内外から受け入れ、この取り組みを含めた経営全体の内容について視察来訪者に説明。

【経営状況】

(10aあたり)

	労働時間(県平均比)	全算入生産費(県平均比)	所得
経営全体	4.4hr (21%)	62,093円 (116%)	1.7万円
水稲	5.0hr	94,437円	
麦	3.8hr	47,427円	
大豆	5.8hr	34,556円	
そば	2.9hr	51,553円	

※ほ場管理は基本的には場主に委託しているため、草刈時間は含まない。